

(寄稿)

NOMURA

高齢者・がん患者の健康を化粧のちからで支援 ～地域共生社会における化粧の役割～

株式会社資生堂(以下、資生堂)は、2008年よりがん患者に向けたセミナーを全国各地で開催してきた。がん患者や医療従事者を対象としたセミナーで、例えば、脱毛した眉毛の描き方や色素沈着をカバーするメイク法などを紹介している。参加者へのアンケートでは、6割の方が「おしゃれに関心が出てきた」「外出が楽しくなった」と回答しているという。実際、このセミナーが、参加者の生活行動に影響を及ぼしている。

近年、アピランスケアという言葉が聞かれることが多くなってきたのではないだろうか。アピランスケアとは、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアである。厚生労働省は、このアピランスケア体制の構築を推進し、現在では、全国381のがん診療連携拠点で整備され、院内のがん相談支援センターや化学療法室などがその相談にあっている。

資生堂が実施するがん患者を対象にしたセミナーは、まさにアピランスケアとしての活動であり、今後も医療機関や薬局・ドラッグストア、化粧品販売店、美容室などと連携し、がん患者の様々な生活場面に応じ、「化粧」を通じて健康をサポートできる場を創出し、就労支援やがんとの共生社会の実現を目指していくという。

本稿は、株式会社資生堂 社会価値創造本部ダイバーシティ&インクルージョン室 エンパワメントサポートグループの池山和幸氏に寄稿いただいた。池山氏は、これまで、介護現場での実践の中で、化粧や美容が、フレイルの予防や健康の維持、特に社会的健康の維持に役立つことを実証し、『Healthcare note No.19-03 2019年3月18日(粧うことからフレイル予防を考える ～フレイルの入り口を抑える化粧療法～)』の中でも紹介している。

本稿では、高齢者の健康について、心身の健康から社会的な健康に関する現状と、化粧習慣や外出頻度などが与える影響を解説いただき、さらに「化粧」や「美容」が高齢者の健康に及ぼす「ちから」についての研究結果(エビデンス)をあらためて紹介いただいた。

そして、それらのエビデンスを地域で活用する取り組みとして、地域包括ケアの一環である通いの場での、化粧を通じた課題解決や、近年、急速に増えている調剤併設型のドラッグストアや調剤薬局がかかりつけ薬局としての役割を担うために地域生活者とのコミュニケーションツールとして、「化粧」や「美容」を取り入れた取り組みを紹介している。

高齢者やがん患者に限らず、心理的なケアの手段とその提供の場は、医療機関や介護施設だけでなく、ますます多様化していくと考えられる。医療や介護関連の事業者の方々も今後の事業戦略構築の際の、新たな視点として本稿を活用いただければ幸いである。

(市川)

2020年7月20日

Healthcare note

(No. 20-07)

寄稿者名：
株式会社 資生堂
社会価値創造本部
ダイバーシティ
&インクルージョン室
エンパワメントサポート
グループ
池山 和幸

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部